

RYOBI SYSTEMS GROUP INFORMATION

WITH
You

両備システムズグループ



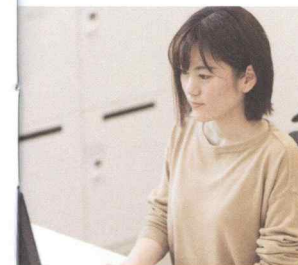


あなたとともに

社会を支え、そこに暮らす人々の生活と密接に関わる仕事。
 これほど大きな喜び、やり甲斐を感じられる仕事は多くはありません。
 時にはまだ誰も見たことのない仕組みさえ生みだし、
 世の中を変革させるサービス=新しい価値観を
 提供することこそ、私たちの存在意義。
 両備システムズグループでは、全社員がこの想いを胸に、
 誇りをもって仕事に取り組んでいます。

RYOBI SYSTEMS GROUP INFORMATION

WITH You



WITH
Society

社会とともに

これまでにない、新しい価値観を社会に提供すること。

そして人々の暮らしが、より安心・安全・便利になること。

両備システムズグループの企業活動は、すべてそのためにあります。

目指すべき理想の姿は“社会になくてはならない存在”。

社会に対する心からの思いやり=「社会正義」こそ、

何より大切にすべき揺るぎない信念であり、原点のひとつ。



WITH
Customer

お客様とともに

「お客様のために最大限できることは何なのか」を突き詰め、

期待以上の提案とサービスによって課題に応える。

そのために、私たちは真心からの思いやりをもって会話をします。

そしてお客様にも、自分自身に対しても、一切の妥協をしません。

すべてはお客様の“心からの笑顔”のために。

これこそ私たちが考える「お客様第一」。



WITH
Smile

笑顔とともに

企業の成長において「すべての社員が輝き、笑顔でいられる」ことは、
「お客様第一」と同じく、最も大切にしなければならないこと。

なぜなら、イキイキと働く社員の笑顔=企業価値だから。

両備システムズグループが歩んできた50余年の歴史は、

まさに社員の笑顔が紡いできた、社員たちの物語そのもの。

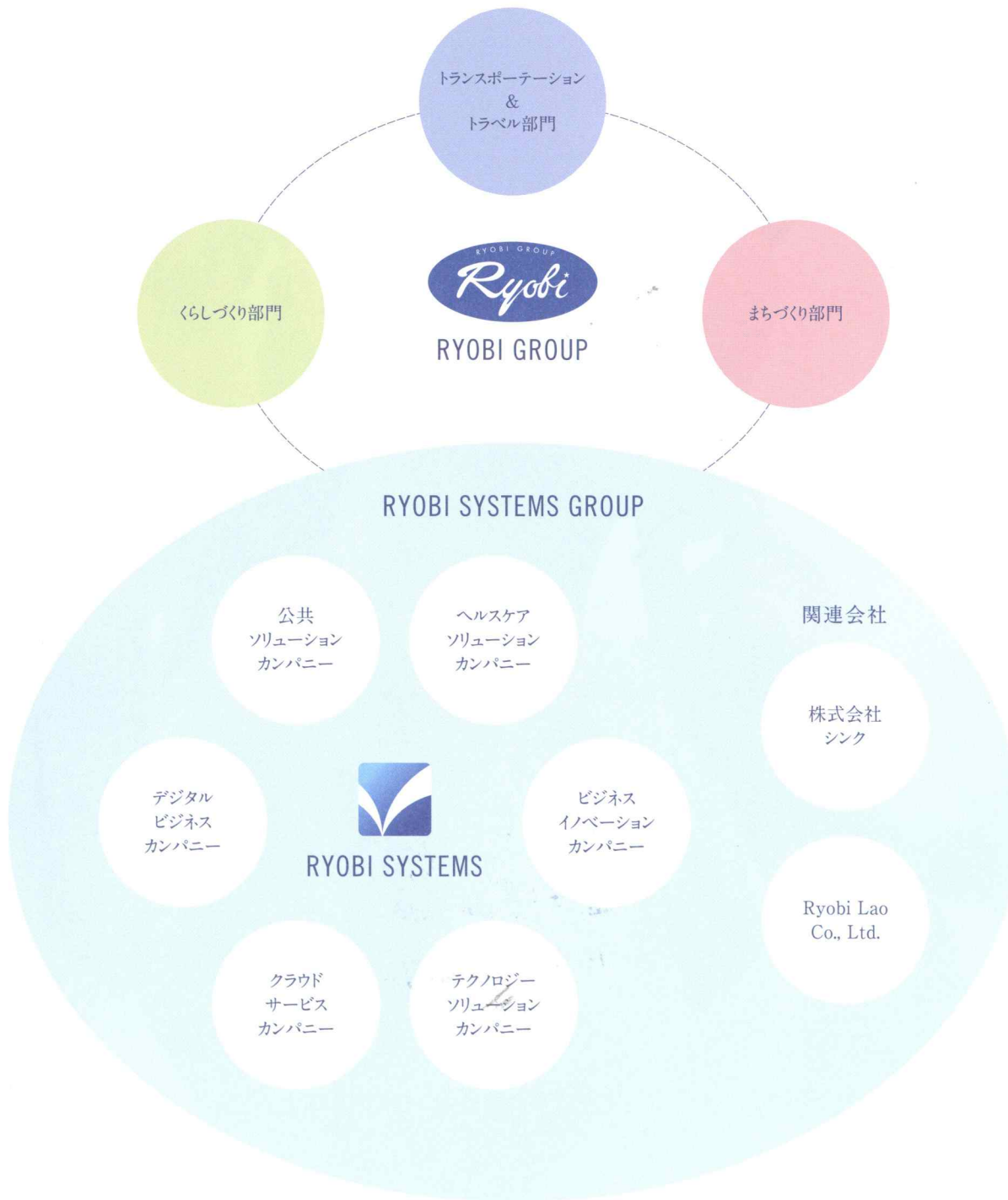
たくさんの中の一人ではなく、一人ひとりが主役。

両備システムズグループには、そう心から実感し、働ける環境があります。



両備システムズグループについて

両備システムズグループの強み、それは先取・進取の気風に富み、常に新しいことへ挑戦し続ける点にあります。行政・医療・社会保障分野を柱に事業を拡大し、創業から半世紀の間に教育、運輸交通、流通の分野など業種・業務に特化したICTサービスを多角的に提供してきました。独立系ICT企業として、独自の事業拡大を図る一方で、両備グループ約50社の基盤を強みとして、相互に連携することで新たな価値創出、高付加価値のトータルソリューションを提供できることも大きな強みです。



両備システムズの6カンパニーの事業領域

創業以来、業種・業務、技術に特化した専門的・先進的なICTサービス提供を追求してきた両備システムズグループは、2020年1月、專業特化領域ごとに分社していた6社を1社に合併しました。

それぞれの強みを継承し、これまで同様スピード感をもったサービス提供を図るため、社内カンパニー制を取り入れました。開発投資力強化、人財・ノウハウの有効活用をさらに加速化することで、高度な技術・品質、そして信頼性の向上に努め、人にしかできない思いやりを発揮した仕事で、デジタルトランスフォーメーション社会の実現に寄与します。

公共ソリューションカンパニー

■ 公共(官公庁、その他外郭団体)向けソリューション

“豊かな地域社会の発展に貢献すること”をコンセプトに、自治体や都道府県・省庁への情報サービスを展開。基幹・農業・地図・福祉など、庁内のさまざまな業務を支援するシステムを提供し、セキュアなクラウドサービス基盤で、広域連携や共同利用など地域に即した住民サービスを実現。スマートシティを目指し、公共団体の課題解決や政策・ビジョンを反映したサービスを提案します。

ヘルスケアソリューションカンパニー

■ 社会保障関連・医療機関向けソリューション

保健師の声を反映しユーザビリティを高めた、地域健康支援システムを提供。医療・保健・介護・健診などの各データを横断して分析し、地域保健活動の計画作りから評価・見直しまでを多角的に支援します。クラウド型情報サービスで業務の効率化と経営改善に寄与。誰もが安心して暮らせる「ヘルスケア社会」の実現に向けた基盤を、その地域の特性に応じた形で提案・構築します。

ビジネスイノベーションカンパニー

■ 金融・流通・製造関連ソリューション

■ CRM(スポーツジム、保育、酪農)ソリューション ■ 移動体関連ソリューション

幅広い業種のお客様向け、企業経営や組織運営を最適化する販売・生産・顧客管理などのソリューションとサービスを提供、会員管理システムや登園管理システムをはじめとしたオリジナルソリューションも日本全国に展開しています。また運輸交通分野を中心に、位置・移動・地図・画像情報を地図上で活用できるソリューションも提供しています。

デジタルビジネスカンパニー

■ 校務支援、文教ビジネス関連ソリューション

地域密着の“顧客視点”で、戦略的なICTを提案しています。特に教育(小・中学校等)分野に強みを持ち、校務支援システムを全国に展開中。小・中・高等学校のパソコン教室導入なども手掛けています。

クラウドサービスカンパニー

■ データセンタービジネス ■ インフラ構築、運用支援サービス

■ アウトソーシングビジネス(人材派遣含む)

中四国最大級の自社データセンターを有し、お客様の大切な情報をお預かりするとともに、全国にクラウドサービスを展開。高度な技術・知識を持ち、お客様の情報セキュリティ・インフラ分野の課題に合わせた最適なソリューションを提供しています。また、ICTアウトソーシングサービスを中心に、システム開発力・人財活用力を活かし、お客様のビジネスプロセスを包括的にサポートします。

テクノロジーソリューションカンパニー

■ ソフトウェア請負開発 ■ 組み込み系請負開発 ■ 構築、運用、インフラ関連SIサービス

長年にわたり先進的なソフトウェア開発に取り組み、高度な技術力を培う中、AI・IoT分野の研究開発やRPAによる業務効率化、海外ビジネスにも取り組むなど、新たな価値の創造に常に挑戦しています。

両備システムズグループ関連会社

株式会社シンク

■ 行政分野への情報サービス(滞納整理システム)

税金や国民健康保険料の「滞納整理システム」のパッケージ開発に特化し、業界トップシェアを誇る。地方自治体債権の適正な管理を提案するコンサルティング業務も手掛けます。

Ryobi Lao Co., Ltd.

■ データセンターサービス、情報システムサービス、BPOサービス、IT機器販売

ICTの導入が急速に進むラオスにおいて、「ICTを使用してラオスの国を豊かにする」というビジョンのもと、国営データセンターの活用と、アプリケーション開発・提供を通じ、ICTの普及を目指します。

プロジェクト紹介

両備システムズグループが提供するサービスは、行政や医療・福祉、教育や産業など、社会とそこに暮らす人々の生活にとって、欠かすことのできない分野が主なフィールド。ヒアリングから開発・導入・運用まで、トータルに手がけられる当社ならではの強みを活かし、これまで「日本初」「業界初」のソリューションを提供してきました。



1 ■ AI研究開発 世の中を変革するサービス提供のため 先端技術の研究を行う専門チーム

社会インフラやビジネスなどにおいて活用され、まさに今、世界で研究・開発に注目が集まるAI技術。一般家庭ではAIスピーカーのように、すでに生活に入り込んでいるものもあります。

IoT・AI研究グループは当社グループの横串機関で、IoT・AIの技術・サービスを先行調査し、ビジネス拡大に貢献するチーム。これまでの慣例・常識にとらわれず「新たな発想でチャレンジすること」を信条とし、両備システムズグループ各社よりメンバーが集結。若手社員が多く在籍しているのが特色です。

AI技術に対する「期待の大きさ」は、「2030年には日本の約半分の職業をAIで置き換えられる可能性がある」という、大手シンクタンクの前測にも現れています。実際、人手不足が深刻な医療・介護・健康の分野において、AIのサポートはなくてはならない存在です。これらは両備グループの強みである「運輸交通・まちづくり・くらしづくり」というフィールドにも合致する分野。AI研究の魅力は、まさに「世の中を変革できるサービスの提供」につながる点、社会的重要性の高さにあると言えます。

プロジェクトの詳細はコチラ →



音声の成分解析と声質変換の実験
マイクに向かって話しかけた人の音声成分をAIが解析。
さらに解析した音声に対して声質変換まで行います。

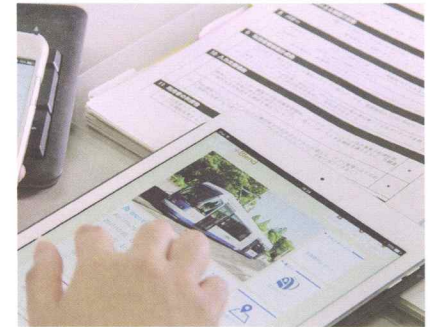


画像処理の実験
航空写真の解析を行い、農地専用の地図を作成する実験。
人手で作ると膨大なコストのかかる地図データをAIが
自動で作成します。

2 ■ スマートフォンアプリ開発基盤「i-Blend」 使う人たちで共に創るという新発想 行政と住民の結びつきを強くするアプリ

i-Blendとは、地方自治体の職員さま自身が、簡単かつスピーディーに作成・変更できるスマートフォン向けアプリ。「作る」のではなく「ブロック（機能コンポーネント）を組み立てる」感覚で、防災や子育てといった、住民生活を総合的に支援するアプリを構築できるのが特長です。住民へプッシュ型の情報配信をすることはもちろん、より素早く、的確に住民の要望を取り上げる相互コミュニケーションの構築は、地域活性化には必須。i-Blendは、導入いただいた茨城県守谷市が日経BP社の「住みよい街ランキング」で全国1位に選ばれたことから、その有用性が実証されています。

プロジェクトの詳細はコチラ →



3 ■ バスロケーションシステム「Bus-Vision」 「バス離れ」に一石を投じるソリューション 日本初のサービスで社会インフラを支える

道路状況や天候に左右されがちのため、「時間通りに来るのか」「いつ目的地に到着できるのか」という不安から、利用者離れが進むバス。Bus-Visionは車載器との通信によって、リアルタイムに車両の現在位置や到着予定時刻を利用者へお知らせするソリューションです。2000年代初め、日本屈指の大手バス会社で、日本初のサービス提供を開始。導入当時、「月に3~5回利用回数が増える」という、目に見える効果を上げました。両備グループ内のバス会社でもサービスを稼働しており、「次発予測機能」「運行予定の見える化」により、バス利用を促進しています。

プロジェクトの詳細はコチラ →



4 ■ 保育園向けソリューション「PIPIO/HOICT」 保育士さんの事務作業を効率化 ICTで保育園の問題解決に貢献

登園・降園受付管理、保育料精算、指導計画など、保育士さんにとっての一番の負担はこれらの「書き物」。そのため、本当にじっくり時間をかけたい「園児や保護者とのコミュニケーション」と向き合えず、ジレンマから離職。「理想とする働き方ができない」環境が、業界の保育士不足を助長する要因になっています。

PIPIO/HOICTは、「カードをタッチするだけ」の簡単操作で、今まで時間を取られていた「書き物」の負担を劇的に軽減。現在、全国130以上の保育園や認定こども園に導入され、今後も電子マネー機能でのキャッシュレス集金や、保護者専用サイトの充実など、よりいっそう利便性を高め、保育サービスの質の向上を支援していきます。

プロジェクトの詳細はコチラ →



刺激とやり甲斐に満ちた日々 自分のやる気次第でどんどん新しい 取り組みに参画できることが魅力

SE

技術開発 兼 海外ビジネス担当
(2012年キャリア入社)
柿本 宏貴

お客様は社内の各部署 新しい技術で業務の効率化を支援

技術研究開発室とは、両備システムズグループ内に向け、作業効率や品質・生産性を向上させる技術を開発・提供する部署。つまり社内の人たちがお客様ということになります。例えば開発のワンフェーズであるテスト工程の自動化検討や、RPAによる単純作業の自動化などがそう。業務は各社の開発SEから直接話を聞き、課題を吸い上げ、使用感などの反応をイメージしながら進めていきます。SEは技術職ではありますが、要望を的確に掴むための「コミュニケーション能力」がとても重要。自分たちが提供した仕組みが受け入れられ、開発のやり方が変わっていくと嬉しく思いますね。

挑戦できるチャンスは平等にある どう活かすかは自分のやる気次第

「企画開発委員」という任期1年のプロジェクトメンバーとしての活動も経験。メンバーは両備システムズグループ各社から推薦で選ばれた8名。自分たちで決めた「3年で5億円の売上になるようなビジネス」というテーマについて検討し、答申することがミッションです。通常業務もこなしながらの進行ですので大変ですが、「一度しかない機会なので、せっかくやるのであれば全力で」と、議長にも立候補。経営陣への答申に向け、グループ各社へのヒアリング、国内外視察・展示会視察などを進めました。

企画開発委員での経験を活かし 見据える先は海外でのビジネス拡大

企画開発委員の活動で、中国と香港に2週間の海外視察に行きました。アテンドも通訳もつけずの無謀(笑)な視察で、アポ取りから宿探しまですべて自分たちで挑戦。自分たちで乗り切ったからこそ見えた「ナマの中国」は、価値観を揺さぶるような体験でした。兼任している海外ビジネスの活動にも、この経験をダイレクトに活かせると考えています。こちらは国内向けのサービスを、国外向けにカスタマイズして提供することが目的。今後、調査活動の活発化に伴い、海外へ赴く機会も増えてくるでしょう。国を越えて仕事ができることは、そうそうないチャンス。さまざまな面で海外の方々との交流を深め、自身も成長できればと考えています。



常に変化を続ける業界で

“新しいコト”と出会うのが何よりのモチベーション。製造業のお客様を中心に、ハードウェア・ソフトウェアの販売、システム構築などを提案するソリューション営業を担当しています。営業職の面白さは、顧客の発掘から提案・納品・アフターフォローまで、一貫して関われるということ。そのためには、営業といえどもお客様の業界の専門知識が必要になります。常に変化を続けるICT業界において、新たに学ぶべきことはたくさんあります。ですが「新しいことを覚える楽しさ」がモチベーションになっているので、あまり苦に感じることはありません。

もう一つ、営業職の大きな魅力は、お客様の反応がダイレクトに伝わるという点。お客様とのコミュニケーションを通して、私たちが提案したソリューション、当社、そして自分自身に対する評価を直接聞くことができるのは、やはり営業ならではの喜びですね。

女性営業の少ない業界だから 逆にチャンスとしてポジティブに捉える

業界の特徴として、女性営業の絶対数はとても少ないです。その点両備システムズグループは他と比べると多い方でしょうか、当社では男女の区別なく実績をきちんと評価してもらえますし、お客様に覚えてもらいやすいというメリットも感じています。実際、上司からは「女性の方が有利」と愚痴られることも(笑)。私自身としては性別がどうということはあまり意識をしておらず、入社当時はむしろ上司の方が、どう扱って良いか探り探りだったようです。



社内外の人たちにとって 欠かせない存在になることを目指して

今現在、当社の女性営業はまだ多くはありません。そのぶん、彼女たちが困っている時には、気軽に相談してもらえるよう、日頃からコミュニケーションを取るよう心がけています。もちろん彼女たちだけではなく、会社にとっても、お客様にとっても、「落部だから、落部じゃない」という存在を目指し、皆さんから信頼されるパートナーになれるよう、日々の営業に取り組んでいます。

男女の区別なく評価される環境 未経験の案件も積極的に取り組み 「なくてはならない存在」を目指す

営業担当
(2007年新卒入社)
落部 莉加

営業



製品の強み × お客様への熱意 SE 経験を活かした営業活動で 大阪支社のさらなる成長に貢献

お客様の声をもっと近くで聞きたい
2年目に営業部への異動を希望

両備システムズに入社後、SEとして配属されました。その後、営業に挑戦したい旨を伝え、入社2年目に営業へ。現在は地域の方々のための福祉関連システムや、官公庁内部向けの業務システムの営業として、忙しく充実した日々を送っています。

私が営業を希望したのは「もっとお客様の近くで直に声を聞き、関わっていききたい」と思うようになったから。元々の性格もあると思いますが、自ら外に出て、お客様と積極的にコミュニケーションを取りたいというのが一番の理由。幸い、当社には上司と1対1で面談する機会が年に複数回あり、そこで営業への思いを伝えることができたので、条件が整ったタイミングで営業異動の希望が叶いました。

強みはSE経験を活かした
レスポンスの速い営業

SE時代に福祉システムの開発を担当していたこともあり、同案件についてはお客様とスムーズに会話することができました。例えば他の営業ならSEへの確認が必要な質問にも、その場ですぐに回答できたり。そういったスピード感・レスポンスの速さが、お客様からの評価につながっていると感じます。また、SEにお客様の要望を伝える際、技術的な要点を押さえて会話できるというメリットもあり、社内外でSE経験を活かしています。

今の目標は自身の成長と
大阪支社の売上に貢献すること

営業1年目の終わり頃、商談としては決して大きいとは言えませんが、初受注をいただいた案件があります。初めての訪問から1年ほど通い詰めて受注。これこそソリューション営業の魅力で、その喜びは今でも忘れられません。この時のお客様に対する真摯な気持ち、誰にも負けない熱意を持ちつづけ、大阪支社の売上をドンドン伸ばせるよう、これからも貢献していきたいです。



営業

官公庁担当
(2014年新卒入社)
平田 翔大



始まりは説明会での出会い
プログラミング未経験で飛び込んだ業界

大学時代までプログラミングは未経験。たまたま新卒採用説明会に参加する機会があり、両備システムズグループと開発の面白さを知りました。担当の女性社員を見て、「なんてイキイキと働いているんだろう」と憧れ、入社を希望しました。

当然、入社当時は不安しかありませんでした。ただ、当社では入社後に約3ヶ月の研修があり、プログラミングなどのICT知識を学ぶことができます。その研修で何でもできるようになる訳ではありませんが、未経験者の自分にとってはとても助かりました。

若手でも任せてもらえるから
仕事に対して自信と責任がもてる

私の初めての担当は、病院の来院者数を集計して帳票に出力する案件。プログラミング未経験だった当時の私には苦勞する内容で、やってもやっても進まず、終わる気もせず…。ですが、周りの先輩・上司の方が技術面でも精神面でも手厚くフォローしてくださり、何とか乗り越えることができたのを今でも覚えています。若手のうちから案件を任せてもらえることで、仕事に対する責任感や、自信を深めることにつながったと感じます。もちろん丸投げということはありません。やる気をもって積極的に質問し、知識や技術を吸収しようとする社員に対しては周りもしっかりサポートするので安心して挑戦できるのです。

「あの人の働き方ってすごいイ！」

そう周囲から思ってもらうことが目標

現在は病院の運営を総合的にサポートする、医療情報システムの開発を主に担当。私生活では2017年に結婚をしましたが、結婚前と変わらず働いています。そもそも「結婚したら退職する」という考えはありませんでした。というのも、当社は社員のワークライフバランスをとっても考えてくれているから。急な早退や休暇申請にも柔軟に対応してくれますし、産休・育休は男女とも取得を推奨。実際3人お子さんがいらして、出産・育児が落ち着いたら戻ってくるという社員も珍しくありません。

こうした働きやすい環境を活かし、「加川さんのように仕事も私生活も全力で楽しんでいる人になりたい!」と思ってもらえることが、今後の目標です。

仕事もプライベートも全力 若いうちからチャレンジできる 環境は当社ならではの良さ

医療機関担当
(2013年新卒入社)
加川 千晶

SE



サポート体制

両備グループ社員能力UPの方程式

$$\text{個人の業績} = \text{健康} \times \text{能力} \times \text{やる気} + \text{夢} = \text{社員の幸せ}$$

に則り、健康・能力・やる気を高める努力をする社員を支援。独自の社員教育・福利厚生を取り入れた充実のサポート体制により、能力主義を主体とした安心雇用を目指しています。

健康のサポート

社員の健康づくりを目的に、独自の施設「両備健康づくりセンター」を創設。全国でもいち早く35歳以上の社員に人間ドックを義務づけるなど、健康づくりの意識定着を図っています。福利厚生ではヘルシーメニューを提供する社員食堂、活発なクラブ活動、年1回の社員旅行などにより、心身の健康づくりをサポート。

能力向上のサポート

社員一人ひとりが、ICTプロフェッショナルとして活躍できるよう、階層別・職種別・課題別等に体系化した実践的な教育プログラムを実施しています。時間・場所を問わず学習できるeラーニングなどのメニューも用意し、社員一人ひとりが生涯にわたって学習する組織風土を醸成しています。教育プログラムは、次代を見据え、常に最新技術・トレンドも取り入れています。また、両備グループ社員の人材開発を目的とした「両備グループヒューマンレジスターセンター」では、異業種交流プログラムを充実させ、多様な知識を習得する機会を提供しています。

やる気向上のサポート

両備システムズグループでは、社員の年齢や階層に関係なく業務改善の提案ができる「提案制度」や、1年間を通して新規事業を検討する「企画開発委員会」など、若い世代がチャレンジできる数多くの制度を設けています。また、資格取得支援も充実しており、通信講座の費用負担や情報処理技術者試験合格者への報奨金支給等を制度化することで、社員のスキルアップを支援しています。そのほかにも、新たな付加価値創出にチャレンジする社員を表彰するなど、社員一人ひとりが主体となって考え、積極的に仕事に取り組めるようサポートしています。

結婚・出産後も変わらず働ける ママ社員にも嬉しい会社です

私は県外から両備システムズグループへ就職したのですが、大きな志望動機として「ワークライフバランスに関する制度がしっかりしている」点が入社の決め手でした。この業界は「ハードな労働環境」というイメージを持たれがちですが、当社の福利厚生は驚くほど充実しています。結婚・出産に伴い、産休と育休を取得する機会を得て、さらにそう感じるようになりました。ここでは男女を問わず「産休・育休は取って当たり前」なんです。だから育休期間が終わったらまた戻ってくる。フレックスタイム制度や短時間勤務があるので、自分に合ったスタイルで働くこともできます。そしてママさん社員から重宝されているのが「おうちデリ」。ランチの定食メインメニューを晩ご飯用として持ち帰ることができるので、単身者の社員もよく利用しています。他にも、各自の指定する記念日に休める「アニバーサリー休暇」をはじめ、独自の制度がいっぱい。これほど社員にやさしく、働きやすい企業は、そうないと思います。

採用担当(2011年新卒入社) 森山 夏樹



両備グループ100年の歴史

両備グループ創業

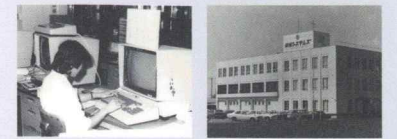
1910年の西大寺軌道(後の西大寺鉄道)創設がグループの発祥となります。創業者である松田三郎翁らが中心となり、西大寺から山陽鉄道に連結する鉄道の建設に奔走。「けいべん」の愛称で親しまれ、52年もの間、地域の人々に利用されました。以来、先見の明を持ち、社会に必要なとされる様々な事業やサービスを生み出してきました。



砂川鉄橋をわたる「けいべん」

両備システムズ設立

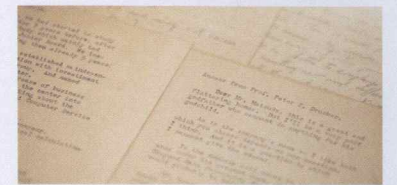
1965年、グループ企業の給与計算や会計計算などを行うため、富士通製のコンピューターを導入。翌年には中国四国農政局より香川用水計算を受託。ここから行政機関との歴史が始まりました。



診療報酬管理システム稼働(1977年)

豊成本社社屋(1973年)

1969年には岡山電子計算センターを設立。新たな時代の波に対峙し、「顧客を知り、顧客に学び、顧客とともに発展する」というコンセプトのもと、コンピューターの事業化をスタートしました。



ピーター・ドロッカー氏から届いた手紙(1969年)

そして、1973年に両備システムズへと社名を変更。1977年からは日本初の病院向けオンラインシステム稼働により、医療の分野に参入。設立10年を待たずして、行政・医療の事業基盤を築き上げ、名実ともに中四国最大規模の計算センターとしての地位を確立しました。いち早く情報サービスの安定化に取り組むべく、耐震・防災・防水・防犯対策を施し、当時では珍しいデュプレックス構成でコンピューターを運用し、高い信頼性を実現しました。



富士通製メインフレームM-160(1977年)

行政情報化フォーラム(1994年)

両備グループの現在

さまざまな交通手段に対応し、旅と移動を楽しく演出する「トランスポーターション&トラベル部門」、新たな技術で次代を創る「ICT部門」、暮らしを支え暮らしを楽しくする「くらしづくり部門」、都市再生と新時代のまちづくりに挑む「まちづくり部門」という4つの事業セグメントを柱に、約50社を有する企業グループへと成長。従業員数は約10,000人を擁し、人々が生活する上で欠かすことのできない、交通や情報、生活インフラを中心に、幅広い事業領域へ展開しています。



NEXT 100

100年を超える歴史を活かし、4つの事業セグメントで次世代に向けた新事業を構想・展開中。「トランスポーターション&トラベル部門」では、アジア諸国を中心に国際進出を活発化。「ICT部門」では次世代のAIやIoT、グローバル展開に注力。「すべてはみなさんへの“思いやり”のため」を合言葉に、これからも大きな夢を描き、次の100年を創造していきます。

両備システムズグループの会社紹介はコチラ →





株式会社両備システムズ 人財戦略部
〒700-8504 岡山市南区豊成二丁目7番16号
Tel 086-264-1123
<https://www.ryobi.co.jp>